

平成 28 年 7 月 31 日

国際観光専門学校名古屋校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会
国際観光専門学校名古屋校

学校法人高村育英会 国際観光専門学校名古屋校の学校関係者評価委員会は平成 27 年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下の通り報告致します。

1. 開催日時 : 平成 28 年 7 月 6 日 15:30~17:30
平成 28 年 7 月 14 日 16:30~18:00
2. 場 所 : 国際観光専門学校名古屋校
3. 出 席 者<五十音順・敬称略>

・学校関係者評価委員会(7月6日)

平田 清浩 (株式会社栄美通信 名古屋支社 支社長)
西川 昌志 (株式会社ツーリストエキスパート 取締役中部営業部長)
永田 太 (ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋 人材開発担当部長)
河辺 敬太郎 (卒業生)
(ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋 宿泊部ゲストリレーション課支配人)

・学校関係者評価委員会(7月14日)

※7月6日は欠席されましたので、7月14日にご意見を聴取しました。

榊原 哲夫 (中経企業株式会社 代表取締役)
(日本ウェディングプランナー・ネットワーク協会 理事長)

・学校事務局

清水 好郎 (国際観光専門学校名古屋校校長)
田中 修 (国際観光専門学校名古屋校教務課課長)
西川 勸 (国際観光専門学校名古屋校就職課課長)
松浦 久年 (国際観光専門学校名古屋校教務課課長)
鷺尾 正己 (国際観光専門学校名古屋校広報課課長)

4. 評価項目ごとの学校関係者評価・意見

(1) 教育理念・目標

評価・意見

- ・一部の大学等で外国人留学生が入学しても出席しないケースなど、その対応に苦慮している現状もあり、留学目的が不明確な外国人も散見されるが、外国人留学生の受け入れは社会のニーズでもあり、貴校の方向性は学校名からも適切と考える。
- ・一部の大学では、国費留学生確保で成功している事例もある。今後は就職先の開拓や宿舍の確保等、トータルサポートが必要になってくるのではないか。
- ・旅行業界およびホテル業界でも、外国人採用が検討され、一部では導入されている。業務を推進するにあたり、より一層、日本語能力および日本の文化に関する知識が求められる。学校の指導を期待する。

(2) 学校運営

評価・意見

- ・「情報システム化による業務の効率化が図られているか」については、ほぼ適切との自己点検・評価結果は妥当と考える。

(3) 教育活動

評価・意見

- ・「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」について、専攻分野への就職割合が年々減少していれば問題だが、例年安定した割合で推移していることが確認できたので、ほぼ適切との自己点検・評価は妥当と考える。
- ・「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力など資質向上のための取り組みが行われているか」について、ほぼ適切との自己点検・評価結果は妥当と考える。

(4) 学修成果

評価・意見

- ・「退学率の低減が図られているか」について、1年生の退学率は改善の余地はあるが、2年生の退学者0名は評価したい。
「資格取得率の向上が図られているか」、「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」の3点について、ほぼ適切との自己点検・評価結果は妥当と考える。

(5) 学生支援

評価・意見

- ・ 模擬結婚式ではなく、「本物の結婚式」を授業の成果として挙げる際には、校外施設を活用して課外活動を行って、成果を上げている。従って、「課外活動に対する支援体制は整備されているか」の評価は、「4」で良いと考える。

(6) 教育環境

評価・意見

- ・ 施設・設備の拡充をどこまで求めるのかを学内で決めないと、校舎移転計画の見通しが立てづらい点が懸念される。

(7) 学生の受入れ募集

評価・意見

- ・ 限られた広報予算で、業者等に丸投げせずに職員が主体的に取り組んでいる姿勢が感じられる点を評価したい。

(8) 財務

評価・意見

- ・ 特記事項なし。

(9) 法令等の遵守

評価・意見

- ・ 特記事項なし。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価・意見

- ・ 閉鎖的とも受け取られがちな専門学校界の中で、貴校としてできることを真摯に取り組む姿勢には一定の評価ができる。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価・意見

- ・ (1) の教育理念・目標でも触れた新たな留学生への取り組みを推進するとの方針が示されており、国際交流についての各評価も妥当であると評価する。

5. 学校としての総括

- ・自己点検・評価については、概ね妥当な評価結果となっており、適切との判断をいただいたが、その一方で中途退学者の改善、外国人留学生の受け入れ態勢の整備など、取り組まねばならない課題を再認識する。